

北前船寄港で花街も

新潟といえば、米、日本酒の生産地として有名だが、日本海側最大の港町でもある。その歴史は、内外との交易で栄えた港の歴史とともに、様々な文化および歴史的景観を今に残している。

古くから港街であった新潟は、江戸時代に北前船の日本海側最大の寄港地として栄え、江戸末期には函館、横浜、神戸、長崎と並ぶ開港五港の一つに指定されるなど、港町として発展した。交易で訪れる人々のほか、政財界人や著名文化人も多く訪れ、これらの人々を迎える芸能、料理を提供する花街（かがい、はなまち）も同様に発展していった。なお、花街という言葉は多様な意味で用いられることも多いが、近年では芸妓を呼べる料亭などの店舗が集積する都市の一面を指すものとして用いられている。



日本有数の花街である古町。①行形亭（いきなりや）と②鍋茶屋（右側の建物）は全国でも最大の規模、歴史などを有する二大料亭といわれる



地域独自に育んだ有形、無形の財産

日本海側最大の港町として

一般財団法人日本不動産研究所 ①⑥

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

新潟市 古町花街

新潟市は戦時下において大規模な空襲を免れたため、古町には料亭などの戦前からの建造物も多く残されており、情緒のある街並みを形成しているほか、日本舞踊、純邦楽和食、衣装などの多くの日本文化のソフト面が今に継承されており、2000年の伝統を誇る古町芸妓は、京都の祇園、東京の新橋と並び称されている。

最盛期と言われた大正から昭和初期よりは数が大きく減り、芸妓が街中を歩く姿を目

しての歴史に関係の深い旧税関庁舎（国指定重要文化財）、交易等により財をなした豪商の旧邸宅である旧小澤家住宅（市指定文化財）、旧斎藤家別宅（国指定名勝などの歴史的建造物が多く残っており、新潟市内中心部にあつて港町の歴史および文化に触れることができるエリアである。

インバウンドを期待

「宿泊旅行統計調査（平成29年・年間値（確報値）（国土交通省）」によると、新潟県内の延べ宿泊者数は全国15位である一方で、このうちインバウンド（外国人客）が占める割合は3.1%（全国39位）となっており、同割合の全国平均15.6%に比較すると低い数値となっている。

にすることはないが、現在でも古町は料亭および芸妓数においては日本有数の花街である。特に、行形亭（いきなりや）と鍋茶屋の二大料亭は、全国でも最大の規模、歴史、格式を有する料理屋と称されている。

バス便でほど近く

豊かな自然環境などを背景とした観光資源が新潟県内には広域的に存在するが、古町およびその周辺地区は新潟駅からバス便でほど近くにある。

外国人旅行者の行き先については、地方都市を含めた多様化が進んでいるため、今後県内でもインバウンド率の向上が期待されるが、これには地域独自のプロモーション等ができる土壌が必要である。

新潟が港町としての発展に伴い現在に引き継いできた有形・無形の財産こそが地域独自のものであり、今後更に多くの観光客を魅了することを期待したい。

（新潟支所、不動産鑑定士・山川剛）